

## 射水市図書館協議会 議事録

### 1 開催日時

令和元年7月18日(木)午後1時30分～午後2時25分

### 2 会 場

射水市中央図書館 2階多目的会議室A・B

### 3 出席者

(委員)7名(10名中) (事務局)9名

### 4 会議次第

- 1.開 会
- 2.教育長挨拶
- 3.委員紹介
- 4.協議事項 資料1～資料2
- 5.その他

### 会議経緯

(事務局)

平成30年度図書館事業概要について説明

(会 長)

ただいまの説明について、何かご質問はありませんか。

(委 員)

なし

(事務局)

令和元年度図書館事業計画について説明

(会 長)

ただいまの説明について、何かご質問はありませんか。

(委 員)

なし

(会 長)

全体を通して何かご質問ご意見はありませんか。

(委 員)

貸出図書数の中で新湊図書館の相互貸借数が増えているのは何故なのか。

(事務局)

県外の図書館との相互貸借を充実させたことによる。(県立図書館の東海北陸地区定期搬送便を活用し)利用者の要望に応じた県外図書館からの取り寄せや相手からの要

望に応じ貴重な資料の貸し出し等を積極的に行ったことが要因と考えられる。

(委員)

ポニーの会が中日ボランティア賞を受賞された経緯は何か。

(事務局)

ポニーの会は、現在の下村図書館ができた平成15年以来、下村図書館や下村小学校、下村デイサービスセンター等で読み聞かせを行っていることが評価され受賞されたものである。

(委員)

14歳の挑戦やインターンシップ後の意見には、どのようなものがあるのか。

(事務局)

図書館業務を体験し、様々な業務があることがわかった。図書館での体験を今後の学校生活に役立てたいなど、前向きな意見が寄せられている。

(委員)

利用者の中には態度がよくない者もいることから、大人の嫌な面も目に付いたのではないか。

(事務局)

そのようなこともあったかもしれないが、そのことに対するマイナスの意見は聞いていない。

(委員)

色々な大人の利用者へのマイナス意見がなく、意義のある体験が出来たのであればよかった。担当者の細やかな説明対応についても、大変ありがたいと思っている。

図書館利用者は、様々な年齢層の利用者がいる。(児童から高齢者までの生涯学習の場として、)図書館の充実を図るためにも図書購入予算の増額をお願いしたい。【要望】

(事務局)

昨年度と比較し5%程度削減されたが、雑誌スポンサー制度等も活用しながら、(限られた)予算を有効に使っていききたい。

(委員)

大島図書館が廃止されてから数年経過した。今後、5年、10年先に車がなくて図書館に行けないことになるかもしれない。高齢になって図書を読みたくなくても近くに図書館がないことから、移動図書館の要望が出てくると考えられる。

児童だけでなく高齢者も対象とした移動図書館や巡回バスなど、車がなくても図書館に行ける手段を検討してほしい。

(委員)

昨年、射水市の公共施設の再編方針が示されたが、(図書館に関して、)具体的な動きはあったのか。

(事務局)

公共図書館を含めた公共施設の再編については、公共施設再編方針案を策定し、地域振興会単位で説明会を開催している。

図書館については、将来的に中央図書館と新湊図書館（分館）の2館体制という方針案を進めていきたい。今後、この方針に向け、図書館をどのようにしていくのかについて、さらに市民の皆さんの意見を伺い、理解を得ながら進めていきたい。

また、これからの高齢化社会に向けて、図書館サービスを含めた行政サービスをどう提供していくかについては、複合的な問題であり、教育委員会だけで解決できるものではない。公共交通の効率化や充実、福祉サービスによる仲介等を含めて、複合的に検討を進めていくべき課題であることから、いろいろな部局と連携しながら、検討をしていきたいので、皆さんからの提言をお願いしたい。

（委員）

氷見市が導入した、電子図書館について教えてほしい。また、将来的に導入を検討してほしい。

（事務局）

電子図書館については、昨年11月に氷見市が県内初で導入された。

図書館に行かなくてもスマートフォン、タブレット等で自宅に居ながら図書を借りる（読み込む）ことができ、（閲覧できる期限があることから、）返却の必要がないというメリットがある一方で、電子図書化されたコンテンツが、非常に少ない等のデメリットがある。

全国的には、市町村立図書館1,326館中、導入済が81館で6.1%、検討中が169館で12.7%である。また、都道府県立図書館47館中、7館が導入済又は2019年度から導入予定である。

今後は、費用対効果の面も含めて慎重に検討をしていきたい。

（委員）

現在、各館に司書1名が配置されているが、今後も正職員で司書1名の配置を続けるのか。

（事務局）

レファレンス及び選書等の観点からも、今後も各図書館への司書配置の継続を人事当局に要望していきたい。

（委員）

次代につなぐためにも経験値が重要と思うので、新しい司書が配置された場合でも、ベテランの司書からの引き継ぎができるような体制での補充をお願いしたい。

（事務局）

その点については、図書館の重要な課題と考えており、十分に検討していきたい。

（会長）

学校現場からの意見はありますか。

（委員）

14歳の挑戦では、いろいろな職場で、いろいろな経験をさせていただいた。経験した生徒からは、プラスの意見が多くあり、発表会という場で2年生から1年生につないでいる。

この後のキャリアを積むためにも14歳の挑戦は重要な役割があると思っている。

(会長)

学校図書館からの意見はありますか。

(委員)

読書週間以外で、普段、学校図書館に図書を借りにこない生徒に、読書の習慣をつけさせるため、親子で読む本を紹介し、親子読書の宿題を出すなどの働きかけをしている。

平日に図書館を利用できない生徒も、夏休みには図書館を利用するよう勧めていきたい。

(会長)

次に、協議事項の3.その他で、事務局に何かありますか。

(事務局)

特になし

(会長)

せっかくの機会ですので、委員の皆さんから何かございませんか。

(委員)

中央図書館の児童書について、古い年度出版物が書庫に所蔵されていることが多い。出版年数は古いが評価の高い絵本などは、書庫ではなく表紙が見えるように工夫して配架してほしい。

この中央図書館も設立当初は斬新なものだったが、時が経つにつれ、それが薄れてきている。

他の図書館を見ると、本棚が直線ではなくカーブを描くように配列されていたり、児童書コーナーでは、本棚を低くして表紙を見やすくしたりするなどの工夫がされている。

予算の範囲内で出来る工夫をお願いしたい。

(事務局)

出来る範囲内で、努力していきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

(会長)

他にご意見等はありませんか。

(会長)

意見等が出尽くしたようですので、これをもちまして、閉会させていただきます。